

## 令和2年度 第1回みんなで支える森林づくり長野地域会議

### ○みんなで支える森林づくり長野地域会議の開催方法について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、当地域会議の開催方法等について局内で検討した結果、感染防止・感染拡大防止の観点から、各委員に資料を送付して書面により意見をいただく方法をとることとした。

### ○各委員に検討いただいた資料

- 資料1 長野県森林づくり県民税活用事業 長野地域振興局管内分
- 資料2 令和元年度(2019年度)みんなで支える森林づくりレポート  
～長野県森林づくり県民税活用事業実績報告～
- 資料3 令和元年度 森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート
- 資料4 長野県森林づくり指針の計画期間の見直しについて

#### 資料1の内容(地域振興局資料)

- |                                  |         |
|----------------------------------|---------|
| 1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備 | 1～3ページ  |
| 2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用       | 3～5ページ  |
| 4 多様な県民ニーズにこたえるための森林の利活用         | 5～7ページ  |
| 5 市町村に対する財政調整的視点での支援             | 8～52ページ |
| 6 令和元年度森林づくり県民税活用事業 執行状況(他所管分)   | 53ページ   |

#### 資料2の内容(林務部資料)

令和元年度(2019年度)、全県での森林づくり県民税活用事業実績内容

#### 資料3の内容

令和元年度、全県での森林づくり県民税活用事業の検証・評価データ

#### 資料4の内容

平成23年度から令和2年度までの10年間としていた長野県森林づくり指針の計画期間を、令和4年度末まで延長することに関する資料

## ○委員からの主な意見等

### 資料1について

#### 1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備 1～3 ページ

##### ■みんなで支える里山整備事業①について

- ・本年度、前年度の2倍以上の間伐を予定する市町村がある中、反対に大幅削減している市町村もあり、政策にアンバランスを感じる。
- ・令和2年度実施要望なしとしている市町村がある。事業を実施する必要があるのか、必要なのに情報が届いていないのか。事業実施の必要がある場合、代替の事業の検討がなされるのかどうか。事業実施が必要なのに情報が届いていない場合は、発信方法の検討がなされているのか。

#### 2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用について 3～5 ページ

##### ■「子供の居場所」木質空間整備事業⑦について

- ・駅やデパート、ベビー用品売り場など、たくさんの方に置いてもらってはどうか。(観光の拠点駅に置いてもらいたい。)
- ・県産材のおもちゃの既製品(木の香る製品)の利用しやすいものを広く知ってもらうことが必要ではないか。

##### ■木づかい空間整備事業⑦

- ・要望がない原因と対策又は事業の必要性を検討すべきではないか。

#### 4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用

##### ■学校林等利活用促進事業⑭

- ・継続している学校と継続していない学校があるのはなぜか。
- ・学校林のある学校で、対象となっていないところは何故対象にならないのか。学校側に負担があるのか。講師が不足しているのだろうか。

##### ■観光地等魅力向上森林景観整備事業⑯

- ・山や景色を楽しみたくても、近くの木が大きくて眺望がきかないところが多い気がする。地元や一般の人が気軽に整備の要望ができるような仕組みが必要ではないのか。
- ・実績件数が少ないが、もっと需要があるのではないか。

##### ■木づかい空間整備事業⑦

- ・要望がない原因と対策又は事業の必要性を検討すべきではないか。

## 5 市町村に対する財政調整的視点での支援 8～52 ページ

- ・事業項目にある「木を活かした産業づくり」については、そのほとんどがベンチの製作であり、製作する数も数台である。力強い産業づくりにはつながらないのではないかな。
- ・森林づくり推進支援金事業総括書の事業効果の記載にあたっては、具体的な数字を記載したほうがよい。
- ・木製ベンチなどを整備する際、市町村間で単価等に大きな差がある。
- ・松くい虫駆除のために薬剤処理してビニールをかけた被害木を目にするのは楽しくない。バイオマス発電等に活用せず、薬剤処理する理由は何かな。
- ・事業によって間伐した材をきのこの原木材として活用する際、住民対象のコマ打ち体験や収穫体験、きのこを育てるキット販売等に活用することで、アピールできるのではないかな。

## 資料2について

### 12 ページ 里山整備方針作成事業について

- ・優先的に整備すべき箇所については、市町村をリードする形で積極的に事業を進めて欲しい。市町村の境を超えて整備を進めるべきではないかな。

### 13 ページ 河畔林整備事業について

- ・危険木の有効利用を考えて欲しい。

### 15 ページ 地域で進める里山集約化事業について

- ・相続などで所有者が不明になる事が多くなる。なるべく早い時期に積極的に進めて欲しい。

### 16 ページ 地消地産による木の香る暮らしづくり事業について

- ・公民館や図書館、学校などへの導入を進めて欲しい。

### 21 ページ エコツーリズムガイド人材育成事業について

- ・研修会受講者の年齢層が高いように思うが、若年層の育成はどうなっているかな。

### 22 ページ 自然教育・野外教育推進事業について

- ・県では、信州環境カレッジで学校支援を行っており、令和元年度で87講座が提供され、29校が利用している。森林やキャンプでの活用など、本事業と共通する面もあるので、協働できるのではないかな。

### 25 ページ 観光地における景観形成のための森林等の整備について

- ・本事業でビューポイントや駐車場、休憩所の整備をすることはできないかな。

### 27 ページ みんなで支える森林づくり推進事業(普及啓発と評価・検証)について

- ・取組を随時発信とある。小さなことでも、常に発信し続けることが大切である。

## 42 ページ中段にある乳幼児入浴用の木製タライの写真について

- ・長野県には温泉がたくさんあるので、そこに設置する小さい子供や赤ちゃんが入れる木製風呂桶を間伐材を用いて製作してはどうか。

## 資料3について

### 資料冒頭

- ・個別の検証・評価シートの前に、この検証・評価を「誰が」・「どのように」行ったのかを記述してほしい。

## ご意見（全般）

- ・森林整備の必要性を基本として、国の補助制度ではかゆいところに手が届かない状況から、それを打破するために県民の力を借りて、条件や厳しい制約を設けずに活用する事としたはずが、「税」ということで非常に使いづらいものにした事から、森林税は使い切れない事態に陥ってしまった。

そこから用途については何でもよいという雰囲気になり、純粋な森林整備に対しては厳しく、いまだ使いづらい内容のままであり、反面、森林とは到底結びつかない、市街地の街路樹剪定等に流用しなければ使い切れないところまでできてしまったことが残念である。

長野県は森林県から林業県に、また成長産業化とするならば、その年で消えてしまうような用途は中止して欲しい。

- ・おもちゃ、ベンチなども安く作ることも大事だが、楽しくて愛されるようなものを作って欲しい。

木に関する工房などもたくさんあるので、広く提案を受けて、全体の「モノ」のクオリティを高いものにしてほしい。それが長野県全体のイメージにもつながる。

ただし、金額がそれに見合うものであるのかはきちんと検討すべき。

- ・県産集成材を使用しようとしたが、在庫がなく、製作に時間がかかることが判明したため、利用できない事例が複数あった。県産集成材は現在の市場ではあまり流通していないのではないか。このような状態が続けば、ますます利用が図れなくなる。

- ・林業は、「今木材が必要だ」といっても急に増産できるものではないため、どのような社会になっているか、社会にすべきかという理念とセットで考えなければならぬところに、難しさややりがいがあると思う。理念を県民全体で共有できる方法が見つかるとうい（理念策定段階から県民全体で関わる仕組み）。